

○11番 谷口晏奈君

仲津中学校3年、谷口晏奈です。私は、給食のフードロスにおける取り組みについて、質問します。

SDGsの目標、飢餓をゼロに、つくる責任・つかう責任の中に、フードロスに関して言及しています。さらにインターネットで1年間の給食の残量を調べてみると、年間で一人につき7.1キロ分、ごはん茶碗に換算して47杯分もの食べ残しが発生しています。

私は、給食で発生する給食残量が多いメニューは、他の栄養価が似ているメニューに変更したり、似た食材を使ったメニューにすることで、給食残量を減らすことができるのではないかと思います。防災食育センターでは、残量の調査やその改善がどのようにされているかについて、お尋ねします。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

谷口晏奈議員の御質問にお答えいたします。

防災食育センターでは、子どもたちの健康や発達のために欠かせない食事として、おいしさと安全を第一に考え、献立を作成しています。例えば、魚は子どもたちの苦手な食材の一つです。そのため、焼いたり揚げたりする調理方法や洋風の味付けにするなど、苦手な食材も食べてもらえるように工夫をしています。しかし、谷口議員御指摘のとおり食べ残しが出ています。

センターで回収した食べ残しについては、日々学校ごとに分けて計量し、実態の把握に努め、残食が多かった献立の調理方法等の工夫・改善を図っています。また、保護者や教職員からなる、献立委員会での意見も参考にしながら、おいしく食べてもらえる給食になるよう努めてまいります。以上であります。

○前半議長 平原柑奈君

谷口議員。

○11番 谷口晏奈君

御返答、ありがとうございます。次の質問に移ります。

次に、パンのフードロスについて、質問します。私のクラスでは、パンの日にパンが大量に残ったり、苦手なメニューがあって残量が多い日があります。

私は、一人一人の好き嫌いも改善することも大切ですが、他に改善できる部分があるのではないかと考えました。それは、給食でパンが出た日に、封を開けていないものは、担任などに報告し、持ち帰ることでパンの食品ロスが減ると思いますが、御検討いただ

けないでしょうか。執行部はどのようにお考えでしょうか。

○前半議長 平原柑奈君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

議員の御質問にお答えいたします。はじめに、給食用パンの持ち帰りが禁止されている理由について御説明申し上げます。

現在、国がパンや牛乳などの持ち帰りは、衛生上の問題があると示しているため、行橋市では、禁止とさせていただいています。給食用のパンは、製造者が細心の注意を払って衛生的に製造していますが、給食当日に食べる目的で製造されたパンであり、持ち帰って食べるように製造しておりません。そのため、食中毒が起こらないよう、安全を優先として持ち帰りを禁止しています。

パンが残っている理由は、体調不良など様々な理由があると思いますが、成長に必要な栄養素を考えて献立を組み立てておりますので、できるだけ給食時間に食べていただきたいと考えています。

谷口議員からいただいた提案の未開封パンの持ち帰りについては、食品ロスのことを考えると大切なことですから、パンの持ち帰りなど、食品ロスが起こらないように、献立の組み合わせや味付け、量などを工夫してまいりたいと思います。以上であります。

○前半議長 平原柑奈君

市長。

○市長 工藤政宏君

谷口議員の御質問にお答えします。まず、本当に大変ありがたい御意見だと思います。

ひょっとしたら市報なんかでもご覧になっているかもしれませんが、行橋市は、今ごみ減量プロジェクトといったものを開始しております。これまで、なかなかごみ減量について、真正面から取り組んできたかということ、なかなか胸を張って言えないような状況がありまして、北九州市さんに毎年ごみの焼却をお願いしているんです。これが、年間約5億円ほどお金がかかっております。

その中で、特に生ごみ、この水分を含んだ生ごみ、これは非常に重たくなりますよね。こういった重さによって、ごみというのはお金がかかってしまうんです。重ければ重いほどお金がかかってしまう。そういった意味で給食の残、給食の残りというのは大変問題であると思っております。そういった視点からも、この給食といったものを、いかに残さないで食べていただくかということ、大変重要であると思っております。

一つですね私もちょっと気になっているところがあって、給食を食べる時間、この給食を食べる時間が、ちょっと短いといった御意見を複数の保護者の方からいただいたこ

とがございます。これについては、学校現場でもいろいろと事情もあるようなんですけれども、やはり給食を食べる時間を、もうちょっと確保できないか、そういったような思いがございますので、落ち着いてゆっくりとご飯を食べられる時間を確保して、皆で楽しく食べる、そういった時間を確保することを、もう少し教育委員会を通じて学校現場でも考えていただきたいと思います。

また、先ほど教育長からもお話がありましたけれども、私たちの頃と比べると、食品に対する管理、私たちが子どものころ、いま47歳になりますけれども、40年前なんかはですね、パンは持って帰られていたんですよ。でも、どんどん例えば気温も上がってきました。食中毒が起こるんじゃないかとか、衛生管理上、どんどん時代的にも厳しくなってきたと思います。

そういったところで、なかなかパンを持って帰れないところは御理解いただきたいと思いますんですけども、一方で児童・生徒の皆さんも、しっかりと行橋市の栄養士の皆さんが考えてくださって、給食センターの職員の方たちが皆さんのために、皆さんの成長を願って食事を作っています。ぜひそういったところも見学していただいたり、あるいは調べ学習なんかで、どういった思いで農家さんたちが食物を育てているのか、給食センターの方々が料理を作ってくださっているのか、そういったところも知っていただければ、またひょっとすると児童や生徒の皆さん方の心の中にも変化が生まれるかもしれませんので、そういったこともぜひ考えていただけたら幸いです。以上です。

○前半議長 平原柑奈君

谷口議員。

○11番 谷口晏奈君

御返答、ありがとうございます。私たち自身も給食について理解していきたいと思えます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。